

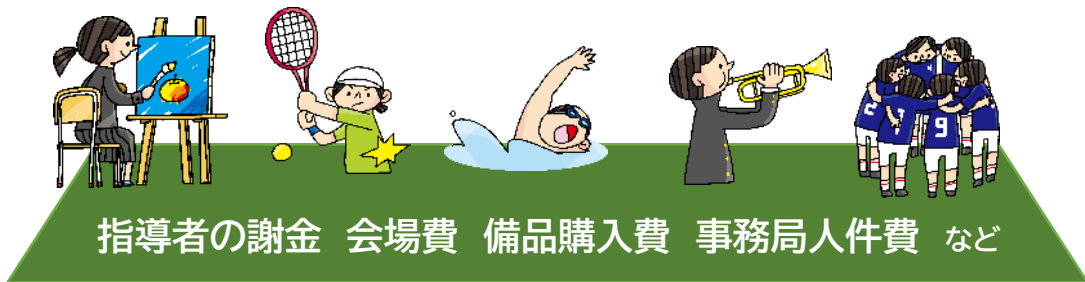


今回は、かけがわ地域クラブ(仮称)の活動費用や部活動改革の背景、皆様からいただいた意見などを紹介します。



7 参加するための活動費用が必要なの?

かけがわ地域クラブについては、指導者の謝金や会場費、用具の購入費等を各家庭で負担していただくことを想定しています。また、経済的な理由で、子どもが活動に挑戦することをあきらめないように、支援方法についても検討を始める予定です。具体的な種目や活動会場等が見通せたところで、費用の試算をして、皆様にお示しします。



Q7 部活動のように費用負担を抑えて活動できないのですか?

A7 現在の部活動は、顧問の献身的な働きにより、指導や運営に係る人件費を最小限に抑えて実施しています(年間指導時間数350時間程度※1、手当額約11万円※2、1時間あたりの報酬は300円程度)。今後、子どものよりよい活動環境を維持していくためには、指導者や運営するスタッフの適正な報酬、会場費用、備品の購入費などが必要です。子どもたちの充実した活動を支えるため、費用負担への御理解をお願いします。

※1 部活動ガイドラインに示された活動時間 週9時間×39週間
※2 休日特殊勤務手当 3時間以上2700円(平日は0円)

8 どうして学校部活動を変える必要があるの?

学校部活動の課題は、次のとおりです。これからの時代に合わせた文化・スポーツ環境をつくるため、現在の学校が運営する部活動を変える必要があります。

1 子どもの「チャレンジしたい」という願いに応えられないこと

令和4年度ニーズ調査(小3~6対象)

- 1位 サッカー
- 2位 バドミントン
- 3位 ダンス
- 4位 バasketボール
- 5位 軟式野球
- 6位 バレーボール
- 7位 パソコン(プログラミング)
- 8位 水泳

数十年前と比べて、子どもが取り組みたい種目は変化しています。

令和3年度調査では、市内の4人に1人が学区の中学校に入りたい部活動種目がないことが明らかになりました。

また、令和4年度調査では、3人に1人が複数の種目へのチャレンジを希望していることや、3人に1人が週1~2日の活動を希望していることがわかりました。

令和の時代では、これまでの部活動とは異なる種目や活動形態が求められています。

2 学校単位では部活動を縮小せざるを得ない学校が現れること



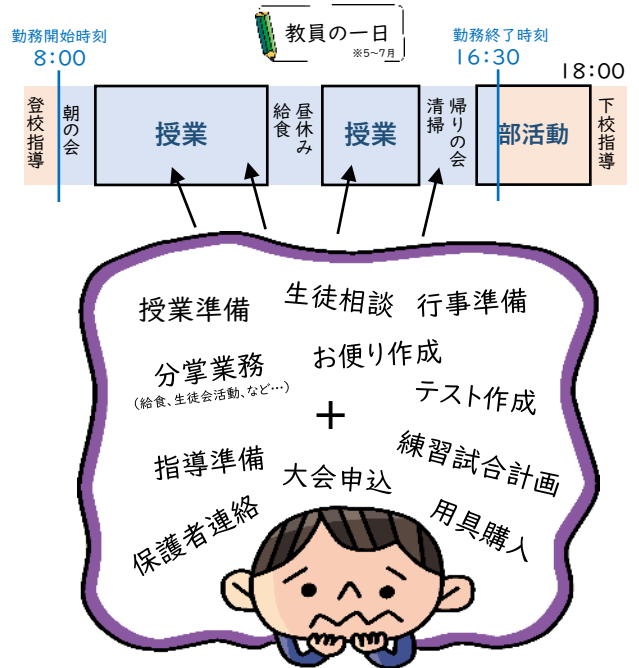
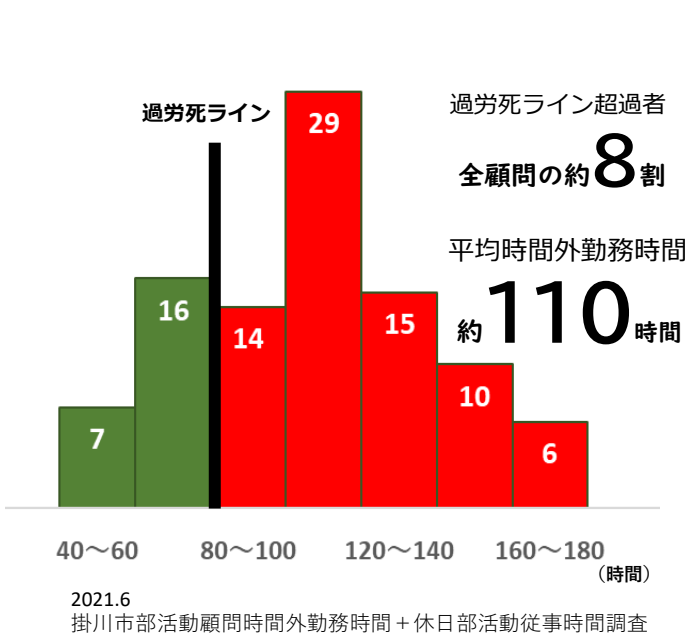
この30年間で、少子化が進み、多くの学校で部活動が廃部になりました。活動したくても、中学校に部活動がなく、その種目をあきらめた生徒も多かったことと思います。

また、学区によっては、今後10年で少子化がさらに進む可能性があります。生徒数が減ると、教員の数も減ります。現在の部活動数を維持できなくなる日がすぐ目の前までやってきています。

3 教員の超過勤務が常態化し、教育の質の低下が不安視されること

教員は授業や学校行事等の準備にかかる時間がほとんどない中、勤務時間終了後も部活動指導に携わり、休日も学校へ来て指導をしています。結果、夜遅くに授業の準備をしたり、休日の部活動指導に来た際に様々な業務をしたりしているのが実情です。

全国的に、教員志望者数は減少傾向です。長時間勤務が常態化した「ブラック」と呼ばれる労働環境を改善しなければ、教育のさらなる質の向上は見込めません。



皆様からいただいた御意見を紹介します。

学校での部活動の種類がもうすこし増えると良いかなと思います。
小学6年生



やはり経験者の先生が顧問であると助かります。
中学2年生

自分が興味がある部活動ができるのがいいと思います。
中学2年生



仕事の関係で送迎ができないので、学校で活動してほしい。
保護者

保護者の経済的な負担により、子どもが活動に参加できないことがなければいいな。
保護者

先生も週休2日を確保して、心にゆとりをもって子どもたちと向き合ってください。
保護者

たくさんの御意見をありがとうございました。今後の具体的な取組に生かしてまいります。引き続き、意見を募集しますので、ぜひ、お寄せください。



意見・質問フォーム

